

なるほどのう



学校教育担当
キャラクター
甲斐善之助

西部教育局からのお役立ち情報 今月のトピック紹介版

6月号

実際に問題を解くと見えてくること・実感できること

全国学力・学習状況調査の問題を実際に解いてみることで、様々な気付きや発見があります。活用力の育成とよく言いますが、その具体はどういうことなのか問題の内容や問いから見えてきます。また、学校訪問等においても、「実際に解いて見ることで、今求められている力、これから必要とされる力がわかる」といった声を多く聞いてきました。

本調査の目的の一つには、「学習指導要領の趣旨や内容を問題の形にして全国の学校に届けること」があります。是非とも問題をくぐった協議を深めていただき、これからの時代を生きる子どもたちに求められる力についての実感のもと、今後の授業づくり・授業改善への手がかりとしていただきたい、と思います。

6月の学級づくりを停滞させない「チーム学校」

6月のこの時期は、子ども同士のコミュニケーションも活発になり、それぞれの子どもの新たな一面や良さが見られるようになります。しかし、その一方で、人間関係において悩みを感じ、自信や意欲を失いがちになる時期でもあります。

日々の学校生活では、子どもの姿を十分に見ておられることと思いますが、「大丈夫かな？」と気になる点が見られた場合、その背景となる要因をとらえることが大切です。この時期においては、「家庭で困っていることがある」「いじめられている」といった悩みを引き出し、寄り添い、支援を行うようにします。「チーム学校」による子ども理解の取組を見直す資料としてご活用ください。

実際に問題を解くと見えてくること・実感できること

前号では全国的な学力調査を生かした1学期の校内授業研究づくりについて紹介しました。各教科ごとの詳細な取組のポイントについては、抽出結果データとあわせ、今月中に別途公開しますが、本号では、抽出調査から見えた課題の概要と今後の取組例について、掲載しています。

実際に問題を解いてみると、
子どもたちの課題が実感できます!!!

正答率の低い問題(抽出調査)を
職員みんなで解き、考察することで
取組の方向性を共有できます!!!

抽出調査から見えた課題とその対応

(1)「各教科における基本的な知識の理解」

例) -5, 0, 1, 2.5, 4から自然数をすべて選ぶ。(中学校数学 A 問題)正答率40%以下

【取組例】

- ◆暗記中心ではなく、なぜそうなるのか考え、納得感を感じる指導を工夫する。
- ◆ペア活動や集団思考等で友達の発言を聞き、確認する活動を授業に取り入れる。

(2)「立式する」「数学的な表現を用いて説明する」(算数科・数学科)

例)情報を選択し、立式し、数量関係を方程式で表現する。(中学校数学 B 問題)正答率40%以下

【取組例】

- ◆なぜその式になるか、立式の理由を言葉、数、図などを使って説明する活動を行う。
- ◆式に表された数の意味を、場面にそって説明する活動を行う。

(3)「目的や意図に応じて、自分の考え等を書く」(国語科)

例)「早寝早起き」活動の課題について、図の結果を基に書く。(小学校国語 B 問題)正答率40%以下

【取組例】

- ◆実験、調査等を行って得られた結果を分析し、具体的に記述する学習活動を行う。
- ◆条件に合わせ、まとめて書く活動を設定する。
→語数指定で書く、表や図の結果から考えて書く等。

説明する・書くことの課題を全教科等へ

学習指導要領の趣旨や内容を問題の形にして全国の学校に届けるのが、全国調査の目的の一つです。

単元テスト・定期テストで育てる思考力・判断力・表現力

高校入試 思考力・判断力・表現力を問う問題

与えられた英文を読み、自分の考えを15語以上の英文で書く。

真さんが、シンガポールの友達
ダニエルさんと日本で交流した英文
を読む。



(設問)

シンガポールへの家族旅行を計画。
真さんになりきり、事前にダニエルさんに
電子メールでお願いしたいことを英文で
書く。

具体的な言語の使用場面において
与えられた状況を踏まえて書く

(正答例)

Hi Daniel! How are you?
I really enjoyed meeting you
in Tottori. Next summer,
I'm going to visit Singapore!

(I want to see many beautiful
places in your country.

I hope you will have time to
show them to me.)

See you soon! Makoto

得点率48.4% 無答率16.5%

高校入試においても、思考力・判断力・表現力を問う問題(全国学力・学習状況調査 B 問題相当)が出題されています。

ある中学校では、授業改善を行うとともに、定期テストに思考力・判断力・表現力を問う問題を各教科で計画的に出題し、確実に力の育成が図っています。

【取組例】

～社会科～

「複数の資料を比較したり関連付けたりして説明・論述する」ことに基づいた問題を、定期テストに計画的に出題するのも効果的です。

知識を使って何ができるかが問われる時代が到来しています。



自校の無答率が高い場合、すべての子どもが思考する場を設定し、子どもの考えや意見を受け止め、それを生かす授業展開になっているか検証が必要です。

6月の学級づくりを 停滞させない

『チーム学校』



希望にあふれた4月、学級や部活動等の所属集団の中で、自分の居場所を模索した5月、2か月をがむしゃらに走ってきた子どもも先生方も、この6月は少し停滞ムードが見え隠れしてきます。集団の中心となって、活発に前向きに活躍する子どもの存在が気になり始めるのもこの時期です。「何か変だなあ」と感じたその時、その日のうちに、先生方にはどのような動きが求められるのでしょうか？また、その動きは『チーム学校』として機能していますか？

「休憩時間に一人でどこに行くの？」

「授業中に頻繁にトイレに行きたがるなあ」

「グループの輪に入れず教室の隅にいるぞ」

「今日も眠そうにしているぞ」

「気になるな～何か変だな～大丈夫かな??？」

「最近、宿題忘れが目立つなあ」

「部活を休んでいるようだなあ」

「授業中によく外を見るようになったなあ」

「ノートの文字が乱暴になったぞ」

こんな時、一人一人の先生がどのような対応をしていますか？
その対応について、教職員同士で共通理解をしていますか？

子どもに尋ねた時の、「大丈夫です」「何もないです」で対応が終わっていませんか？

行動の背景には、必ず原因があります！

表出された行動だけをとらえた指導になっていませんか？

ケース1

あの先生に言ってもなあ・・・



子どもと担任との関係を振り返ることや、他の教員からアプローチすることも必要です。

ケース2

やっぱり、先生には言えないなあ・・・



家庭やいじめ等に原因があるかもしれません！保護者や周りの子どもから探ることも必要です。

ケース3

自分自身も原因がわからないんだなあ



子ども目線に立ち、寄り合いながらチームで対応を考えてみましょう。

先生に言えない理由があるのでは・・・？という視点に立ち、「大丈夫です」「何もないです」等をうのみにしないことが大切です。

『チーム学校』としての対応

「気になるな～何か変だな～大丈夫かな??？」と感じた段階で、声に出して周りの先生に話しましょう！

悩みや相談を受けた学年主任や先輩教員は、それぞれの経験知を総動員したアセスメントで一緒に対応を考えましょう！

管理職、生徒指導主事（主任）、対策委員会等で確認し、よりよい対応について協議・実践をしましょう！